

32 カンノンチク【観音竹】〈ヤシ科シュロ属〉

指定 昭和 45 年 11 月 16 日 町指定天然記念物(植物)

所在地 平内大山

管理者 平内集落



常緑の低木。カンノンチクという和名をもつが、ヤシの仲間である。茎の高さ1~2 ㍎、直径1~2 ㍎になる。直立して枝分かれせず、多くの茎が束になって生える。光沢があり濃い緑色をした葉は、堅い柄が付き、手形状に4~8 片に深く切れこんで長さ15~20 ㍎になる。裂片は狭い長楕円形で幅約3 ㍎。長い葉柄は茎の頂に集まり、シュロ毛で覆われている。

カンノンチクは、本来、中国南部からインドシナ半島を原産とする亜熱帯植物であるが、江戸時代前期から中期頃に琉球を経由して日本に渡来したといわれている。当時から園芸植物として親しまれており、和名は沖縄の寺院の山号である「観音山」に由来する。

平内の群落もはじめは植栽されたものと思われるが、当地の気候と生育条件が合致したとみえ、自然に繁殖し野性化したものと考えられる。